安威川ダムおよび周辺のファンづくり会 情報サイト「AIGAWA.jp」がオープンしました。

府民による自立型の地域づくりを目指して発足した「安威川ダムファンづくり会」の総合情報サイトとして「AIGAWA.jp」がオープンしています。「自然と話そう、人と話そう！」をテーマに、ファンづくり会の活動とそのプロセスの紹介をはじめ、ファンづくり会に参加しているメンバーの取組みを紹介するインタビュー記事や、ダム周辺地域で開催されるイベントの情報・レポートなど、ダム周辺地域の魅力とそこで活動する人々についてのさまざまな情報を発信していきます。
「安威川ダム建設工事情報」ページでは、工事の進捗を定点撮影写真でお伝えするページや、週間の工事予定、道路規制情報など、ダム工事の最新情報を掲載しています。ここでは、ダムの本体工事を施工する安威川ダムJVが発行する、安威川ダム工事を現場目線で発信するニュースペーパー「安威川ダムJV通信」も見ていただけます。
これからも、ダム周辺地域とそこで活動する人々の魅力を広く伝えていく、自由な情報発信の場としてみなさんに活用していただけることを目指して、さまざまな情報を発信していきます。ぜひご覧ください。

AIGAWA.jp 検索　安威川ダム周辺整備WS 検索

安威川ダムfacebookページもぜひご覧ください。

自然と話そう、人と話そう！ AIGAWA.jp

ダム周辺の地域づくりの拠点として「安威川ダム資料館」が開設されました。

安威川ダム建設地点近くの大門寺高台ゾーンに「安威川ダム資料館」がオープンしました。建設に携わった安威川ダム建設工事を施工する安威川ダムＪＶでは、無事故、無災害で工事を完成させることに加えて、完成するダムを活かした地域づくりにおいて、施工者だからこそできることを考え実行しています。この資料館は、安威川ダムＪＶが、安威川ダム工事のＰＲ施設としてだけではなく「ダム周辺の地域づくりの拠点」となることをめざして開設しました。資料館の外装は、活動の芽吹きをイメージする若葉色、内装はこれからの活動で何色にも染めることができる白色としました。安威川ダム資料館の役割は、工事情報の発信基地としてはもちろん、地域情報の発表・発信の場や、里山・山間部地域をフィールドとして活動する人々の活動拠点として、安威川ダム周辺地域を愛するすべての人に開かれた施設をめざします。資料館を通して様々な人や団体が交流、協働することで生まれるコミュニティづくりに、ぜひご期待ください。

※ 現在、資料館内へのご来館は、事前のお問い合せが必要になりますが、資料館横の展望台からは、いつでもダム工事現場を見ていただけます。

安威川ダム資料館の所在地は、ホームページ（http://www.aigawa.jp/construction/）、または、p.1「水辺の生きもの&植物MAP」をご参照ください。

INFORMATION

「安威川ダム情報交流センター」へお越しください。

安威川ダムについて皆さんに知っていただくために、「安威川ダム情報交流センター」を開設しています。ダムの役割やダム周辺の環境保全対策について、広く一般の方々に情報を提供するとともに、ご意見を頂くことを目的としています。
センター内では、ダム事業地周辺の立体模型やパース、パネルの展示、パンフレットの配布、ビデオ放映を行い、ミニ図書館も設けています。
平成24年の春に茨木市山手台から茨木保健所の５階に移転し、リニューアルしました。今までと同様に、自由に見学・閲覧できますので、皆さん、ぜひお越しください。

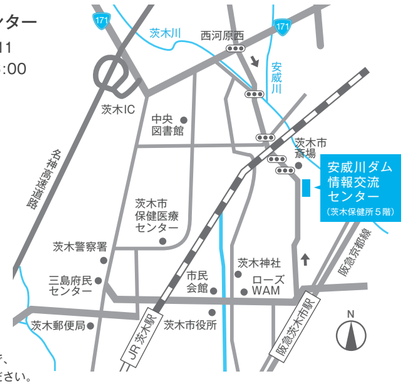
安威川ダム情報交流センター
場　　所：茨木市大住町８-11
開館時間：平日 10:00～16:00

アクセス

〈車でお越しの方〉
国道171号西河原西交差点を南に下って４つ目の信号を過ぎて左側にあります。

〈電車でお越しの方〉
阪急茨木市駅（北口）より北に向かって徒歩約10分です。

※地下には駐車場がありますが、収容スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



安威川ダム建設事務所ホームページ
http://www.pref.osaka.lg.jp/aigawa/

安威川ダム建設についてホームページを開設・運営しています。
ダムの事業内容や環境保全対策について、わかりやすく解説したサイトです。
「安威川ダムニュース」のバックナンバーが閲覧できるページも用意しています。

このパンフレットは、企画から印刷まですべてを外注して作成しています。（39万部作成。作成費用１部あたり 10.4 円）

大阪府広報担当副知事もずやん

大阪府　安威川ダム建設事務所

〒567-0813　茨木市大住町 8-11
TEL：072 (626) 6083　FAX：072 (623) 5963
メールアドレス　aigawa-dam-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

enokojima creates osaka
enoco
大阪府立江之子島文化芸術創造センター

自然と話そう、人と話そう！

安威川ニュース

安威川流域の自然を知る
水辺の生きもの＆植物 MAP

ファンづくり会 メンバーインタビュー
教育の視点から安威川周辺地域の未来を考える

安威川ダム「地元ワークショップ」「ファンづくり会」ミーティングレポート
みんながいっしょに考える地域づくり

VOL.2

平成 27 年 6 月号

安威川流域の自然を知る

水辺の生きもの＆植物MAP

安威川を中心とした水環境は、植物と生きものたちの宝庫です。
中には、大阪ではこの地域でしか見られないめずらしい生きものも生息しています。
身近な動植物を観察して、茨木の豊かな自然を楽しんでください。

フクロウ

平地から山地の林に生息する。日中はほとんど動かず、樹洞や木の枝でじっとしている事が多い。非常に発達した聴覚を持ち、音により獲物の位置を特定することも可能。

アジメドジョウ

安威川が本種の生息西限にあたる。大阪では安威川でのみ見られる。本来は濃尾平野（長良川流域）や滋賀県の琵琶湖流入河川が生息域だが、飛び地として安威川に生息している。

ニホンリス

主に朝夕に活動する。樹上性のリスで、比較的低地の松林などでも見られる。長い手足と指、鋭いかぎづめ、大きな耳が特徴。

ミヤマクワガタ

樹液を出す樹木の多い里山で生息。酷暑と乾燥に弱く、冷涼湿潤な環境を好む。昼間に活動することも多いので、採集は比較的容易。

キツネ（ホンドギツネ）

安威川中流部の里山、河原などの草原があれば巣を作る。ネズミや昆虫を食べるので、市内北部の小動物の多い所で見られる。以前は平野部でも見られたが都市整備と共に激減。

カワセミ

淡水域の水辺に生息する小鳥で、鮮やかな青緑色の体色と長いくちばしが特徴。日本のカワセミ科の中では最小種となる。

オイカワ

水環境・水質の悪化にも強く、都市河川にも適応する。雄の繁殖期の色は美しく派手。関西ではハエ、ハヤとも呼ばれる。

カワムツ

水質の変化に比較的強く、都市部でも見られる。近縁のオイカワと比べて、緩い水流を好む。体側に太い紺色の縦帯がある。

ナマズ

都市河川部や水路でも見ることができる。日本の淡水域の生態系では、食物連鎖の上位に位置するとみられる。

シュレーゲルアオガエル

繁殖期はおもに４月から６月。山間部の細流付近、落葉などに覆われた木陰の水たまりで産卵する。卵塊はクリーム色の泡状。保護色で褐色を帯びる事もある。

オオサンショウウオ

両生類中で世界最大。全体的に暗褐色で小さないぼがあり、頭が大きい。特別天然記念物に指定されている。

オオルリ

山地の特に渓流の近くに生息する。姿もさえずりも美しいのが特徴だが、鳴き声だけで姿の確認をすることは困難。美しい瑠璃色はオスのみ。

ニホンイシガメ

日本固有のカメ。背甲の中央にりゅう条（盛り上がった部分）が１本ある。他のカメより尻尾が長いのが特徴。日光浴を非常に好む。

アカザ

棘条（きょくじょう）には毒腺があるので注意。刺されると痛む。夜間や水の濁った時に活動する。水底の石の間を伝いぬうように動き回る。

サワガニ

一生を淡水域で過ごす純淡水性のカニ。水がきれいな渓流・小川に多いので、水質の指標生物となっている。

オオムラサキ

日本昆虫学会により、日本の国蝶に選定されている。オスの羽は、光沢のある青紫色なのに対して、メスの羽は光沢のない茶色。

多様な生きものたちのグラデーション。

大阪府北部は特徴的な独自の地形をしています。市街地までなだらかに連なる屏風状の山と、山間部から都市部を背骨のように流れる安威川。こういった地形の特徴によって、生物層が分断されることなく、山岳から平野部まで多様な生きものたちのグラデーションが保たれています。いろんな生きものがいるということは、食物連鎖のバランスが非常に良い状態であるともいえます。茨木市では、生きものたちにとって、それぞれの生態系で棲みやすい、良好な自然環境がたくさんのこっています。

豊かな水環境を持つ安威川流域は、茨木の「宝」。

アカザやオオサンショウウオなどといった、絶滅危惧種と言われる生きものが、茨木には多く生息しています。これには安威川流域の地形や環境が関係しており、安威川に流入する細い川が多く、そのため冷たい清い水が流れてきています。そして、水温の違いによっても生きものの多様性が生まれています。また、水脈の多さから魚の種類が多く、それをエサとするカモ類や、サギ、カワセミなどの水鳥が多く生息しています。水環境を軸とした豊かなまちが、茨木なのです。

タヌキ（ホンドタヌキ）

安威川の里山等、広域に生息。稀に郊外でも見ることがある。体型は藪の中の行動に適している。身を隠せる広葉樹林の下草が密生した場所も好む。

オオタカ

淀川水系でも広域で見られる。安威川では獲物を捕らえる姿を見ることができる。飛行速度は時速 80km、急下降時には 130km にも達する。

〈散策にあたっての注意〉 夏場から秋口にかけては、マムシに注意しましょう。スズメバチやチャドクガ、イラガなど、自然には有害な生きものも必ずいます。また、水筋で遊ぶ時、少しでも雲行きが怪しくなった場合は、「せっかく来たんだから」という考えはやめ、すぐに引きあげましょう。

1 キツネノカミソリ

キツネノカミソリは、ヒガンバナ科、多年生の草本球根植物。日本では本州・四国・九州に分布しています。茨木市内で群生しているのはここだけで、見渡す限りキツネノカミソリの花畑となる風景は、幻想的な雰囲気を醸し出します。

2 ヒガンバナ

人里に生育し、田畑の周辺や堤防、墓地などに見られることが多い。湿った場所を好み、時に水で洗われて球根が露出するのが見られます。茨木の里山でも田畑の縁に沿って目にすることができます。

3 ウリカエデ

ウリカエデは宮城県以南の本州、四国、九州に分布する落葉小高木。丘陵地帯の明るい二次林に生育します。樹皮は緑色で、名前の由来は、樹皮の色がウリに似ていることから。茨木の林の中で多く目にすることができます。

4 ササユリ

本州中部から九州に分布する多年草。山地の草原や、茨木にあるような明るい森林に生育します。地下に白い鱗茎（いわゆるユリ根）があります。小さなものは根生葉のみですが、大きく育ったものは花茎をのばし、6月から7月にかけて美しい花を咲かせます。

5 ヤマザクラ

ヤマザクラはバラ科の落葉高木で、山地に自生する桜。樹皮は灰色で、横に皮目が走ります。葉は卵を逆さにした形で、先がとがります。4月頃、新葉と同時に淡紅色の5弁花を開き、紫黒色の実を結びます。日照条件のよい場所に生育しています。

6 コアジサイ

コアジサイは、アジサイの仲間で装飾花がないのが特徴。花は淡紫色で小さく、握りこぶしほどの大きさの花序を作ります。葉は卵形で規則正しいはっきりしたギザギザの切り込みがあります。尾根筋の乾いた林の縁によく見られます。

7 ショウジョウバカマ

北海道から、本州、四国、朝鮮半島などに分布する常緑の宿根草です。山地の小川沿いや水分の多い傾斜地などに自生します。先端の尖った、やや細長い葉は地面に這うようなかたちで放射状に伸びます。

8 ヤブムラサキ

ヤブムラサキ（藪紫）は、6～7月に咲くクマツヅラ科の花。花の特徴は葉の脇から集散花序（最初の花が枝先につき、その下に次々と側枝を出して花がつく）を出し、淡い紫色の花をたくさんつけます。茨木の林の中で多く目にすることができます。

イラスト提供：オオサンショウウオ、ニホンイシガメ、ホンドギツネ、ホンドタヌキ、ニホンリス、オオタカ、カワセミ、オオルリ、アジメドジョウ、アカザ、カワムツ、オイカワ、ナマズ、ミヤマクワガタ＝小村一也
フクロウ＝岡田貴子　サワガニ＝馬場玲子　オオムラサキ＝岡田貴子　シュレーゲルアオガエル＝原素子

Event Information
イベント情報

9 茨木里山まつり

里山まつりは新緑の時期に、市民の皆さんがより身近に自然を体感できるイベントです。自然を感じてもらうための「体験コーナー」や木工作品や菊炭・竹炭作品の「展示コーナー」、地元産の野菜やお菓子の販売もありご家族で楽しめます。

日時：2015年5月31日（日）
場所：茨木市里山センター

10 若園公園バラ園

茨木市の花として制定されている「バラ」。市民の皆さんに親しみを持ってもらえるようにという想いから、茨木市によって整備された若園公園バラ園。春から初夏にかけての新緑の時期に、鮮やかなバラが咲き誇ります。

日時：5月初旬～6月初旬がバラの見頃
場所：茨木市若園公園

11 安威川上流アマゴ釣り

解禁日の間、下音羽川・安威川（龍仙峡）上流では、アマゴやニジマスなどの渓流釣りを行うことができます。また、釣りのほかに、つかみ取り体験もあり、子どもたちも楽しむことができます。

日時：10月下旬～12月下旬（アマゴ・マス）
3月上旬～5月上旬（アマゴ・マス）
土・日・祝のみ営業（安威川上流漁業協同組合）
場所：下音羽川・安威川（龍仙峡）上流

12 AIGAWA FES 2015

子どもたちが楽しめる、安威川周辺の自然を活かしたワークショップなど、楽しいプログラムがもりだくさん！ 安威川周辺の自然・食・人の魅力を知ることができるフェスティバルです。

日時：2015年 10月（予定）
場所：大門寺北 高台ゾーン

13 阿為神社の蹴鞠奉納

「藤原鎌足ゆかりの神社」として地域の人々からも大切にされている阿為神社。毎年11月、秋の収穫に感謝する「新嘗祭」の儀にあわせて、境内に設けられた鞠庭で「蹴鞠（けまり）」の奉納が行われます。蹴鞠の神事は、午前と午後の2回行われ、境内はたくさんの見学者で賑わいます。

日時：2015年11月23日（月・祝）
場所：阿為神社

身近な自然を大切に想う心が、まちを好きになるきっかけになる。

足もとの自然から環境を考える。

水辺の生きもの観察会や自然学習の出前授業では、自分たちが住んでいる所、足もとの自然を大事にすることから教えています。アフリカの動物や北洋のクジラといった遠い野生ではなく、まずは自分たちに近い「普段着の野生」に目を向けてもらいたい。身近な野生を好きになること、興味を持つことで、段々と生態系と環境が分かってくるんです。それは、生物環境だけではなく、人が住んでいる生活環境、ごみやエネルギーの環境問題も含みます。大きな意味の「環境」というものを、自分のまち発信で好きになっていって、興味を持って大事にしてくれる。そういった考えを持ってくれればいいなと思っています。実際に子どもたちに接すると、逆にこちらも知識をもらえるんです。子どもならではの素直な疑問や思いがけない視点から、新たな課題に気付かされることがたくさんあります。それら1つ1つが蓄積されて、ノウハウになっていくのが面白い。私たち自身も楽しんで教えられますね。

さまざまな立場の人とつくる、学びの場。

動植物以外にも、地域の風物や名物、生活に密着した知恵袋がたくさんあると思います。いろんなテーマで、子どもが遊びながら学べる場所があれば面白いですよね。私たちだけではなく、山間部に住んでいる人たちにも先生になってもらえたら、きっと楽しいと思うんです。昔の寺子屋のように、それぞれの得意分野を活かしながら、さまざまな立場の人と一緒に「学びの場」をつくっていけたらと思っています。中でも、子どもにとっての里山体験というのは、とても大事な学びになると思います。里山というのは、人の住むまちと野生との緩衝地です。人が手を入れてつくった場所ですが、そこにはいろんな生きものが生息しています。水田に適応した水生生物もいれば、間伐した山にも動物はいる。日本の長い農耕文化の中で培われてきた、新しい共生関係が里山なんです。そういう場所を体験すると、人と生きものの上手な共生、共存が学べるんですよね。それは、豊かな自然に恵まれている茨木のまちでは、特に忘れてはいけないことだと思います。

茨木のまちを好きになるきっかけづくり。

住んでいるまちを好きになるきっかけは、たくさんあると思うんです。景色であったり、地元のお祭りであったり、美味しい食べ物であったり。その中で、私たちができることは、やっぱり自然環境を好きになってもらうこと。有形の財産である自然を大切にする心を育んでいけたら、自分が住んでいる、この茨木のまちがもっと好きになると思います。そんなきっかけづくりを子どもたちに提供していきたいですね。

小村一也　Komura Kazuya

NPO nature works 代表

昭和34年大阪生まれ。茨木市在住。細密画アトリエきりん洞／NPO法人ネイチャーワークス主宰。岐阜大学大学院医学系研究科解剖学分野非常勤講師。
陸水域の魚類を主題に細密生物画を手がける。2008年から藤田保健衛生大学医学部・客員准教授として、人体解剖実習書の描画と制作に携わる。「石に棲む魚」「ワンシートペーパークラフト」等、ネイチャーアートの実践や講師を務めながら、「大正川自然観察会」や野生と生態系をテーマにした小学校への特別講義など、子どもの環境教育に携わる。

安威川ダムのマスコットをみんなでつくり上げていくワークショップがはじまります。

安威川ダムや周辺地域についての理解を深めていただき、将来に向けてファンを増やすプロモーションを目的として、マスコットキャラクターの公募を行いました。作品制作にあたって、小中高校生を対象とした「キャラクターデザインワークショップ」を計6回実施し、アートディレクターの中村誠二さんやイラストレーターのトヨクラタケルさんらが講師として参加されました。このワークショップでは、広告業界のアートディレクターからキャラクターデザインの作り方について、現場の経験や様々な事例からアイデアの出し方、ひらめき方を学び、生徒さん達が実際のテーマに沿ってキャラクターデザインを考える行程を体験してもらいました。
そして、197件の公募作品のなかから、楠根小学校3年生・寺野一勢君の考えた「オオサン（仮称）」が選ばれました。審査にあたっては、大阪府立江之子島文化芸術創造センター館長・甲賀雅章さん、NPO cobonの小島剛さんらをはじめ、若手クリエイターたちが参加し、どのキャラクターが安威川ダムのマスコットにふさわしいか、白熱した議論が交わされました。

今後は、「市民が育てる安威川ダムプロジェクト」として、まちづくりや広報、キャラクターデザインに関心のある大学生・高校生といっしょに、マスコットキャラクターの運用について考えるワークショップが継続して行われます。寺野一勢君の考えた「オオサン（仮称）」が新しくできる地域にどのように貢献できるのか、地域の変わりゆく環境に市民が注目するためにはキャラクターを使ってどのように展開すれば良いのかなど、みなさんといっしょに、

「食」と「人」が社会をつなぐ。子どもたちに地域で学んでほしいこと。

教育の視点から
安威川周辺地域の
未来を考える

茨木は「食」を身近に学べる、可能性のあるまち。

「食育」や「農」をテーマに考えてみると、茨木市はいろんな可能性があるまちだと思います。都会ではあるけれど、農地も山もすぐ近くにありますよね。例えば週末には畑をしに里山に行って、土づくりや野菜づくりを体験したり、キャンプをしながら地元の食材を知る機会があったりしてもいい。「食」は全年齢に関わるテーマでもあります。少子高齢化問題や子育て支援、地域の防災・減災活動について考える時に、全部をひっくるめてつなげることができます。また、そうした社会や地域の課題を「身近に引き寄せて考える力」は、実際に現場に行ったり、本物に触れたりすることで養えるものです。子どもや大人が、実感として食の尊さを学べる機会に恵まれた、とてもいい環境だと思います。

ステージや出会いの場となるプラットフォームへ。

生徒たちには「食の自立」を学んでほしいなと思っています。例えば、「生活文化」という選択科目の授業では日本の食文化について教えているのですが、毎回調理実習をしているんです。料理ができるようになると、自活ができるようになりますよね。私自身さまざまなプロジェクトに関わるようになりましたが、やっぱり食べるものってすごく大事だなと実感しています。まちづくり移動カフェ『カフェ場』での茨高カステラ（※1）の提供は、地産地消や飲食を通した会話の広がりについても考えるきっかけになればいいなと思っています。日頃から生徒たちに接していると、高校生って、社会に対してできる事が随分あるんだなと気付かされます。宙いもプロジェクト（※2）や TFT（※3）の課題研究では、内容だけではなく、春夏秋冬続けていける仕組みや、次の学年に自分たちの成果をつないでいく方法についても、生徒自らが考えて実行しています。課題に対しての「継続性」や「仕組みづくり」といった視点をきちんと持ってくれているのがうれしいですね。私としては、生徒と社会をつなげる「糊」の役目ができたらいいなと思っていますので、行政やその他の取り組みに対しても、教育の現場と相乗作用的にやっていければと考えています。生徒にも、周りと社会をつなぐ役目を自分が担っているんだという意識を持ってもらいたい。そんな達成感を味わえるステージや双方向の学びになる出会いをたくさん提供していくためにも、この場所がまちづくりのプラットフォームの一つになれたらいいなと思っています。

（※1）茨高カステラ
地元の養鶏場の卵を使ったカステラを開発。家庭科の実習の1つとして、授業内や家庭部の生徒によって作られている。茨木市内のイベントにて試食という形でのみ提供されるため、「幻のスイーツ」とも言われている。校章の焼き印入り。

（※2）宙いもプロジェクト
茨木で採れたサツマイモで茨木の名産品を作る、農家とお店と市民が一体となって進める「町おこし」プロジェクト。品種を選ぶ初期段階から茨高生が関わっている。平成23年度にはじまり、今年で5年目となる。追手門学院大学、梅花女子大学、大阪成蹊大学の参画、摂南大学の協力に続き、平成27年度には立命館大学とのコラボも。

（※3）TFT
TABLE FOR TWO（＝2人の食卓）。開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動。対象となる定食や食品を購入することで、1食につき20円の寄付金が開発途上国の学校給食になる。平成26年度に、茨木市役所内のスカイレストランの協力のもと、宙いもを使ったTFTのメニューを茨高生たちが考案、実施した。

入交 享子　Irimajiri Kyoko

大阪府立茨木高等学校
家庭科 指導教諭

平成11年大阪府立茨木高等学校着任。平成18年大阪府指導教諭（女性第1号）に任命される。平成19年文部科学大臣優秀教員表彰。「開かれた学校づくり～地域に根差した教育を～」を目指し、地域はもちろんNPO・公的機関・大学・企業などと連携しコラボ授業を展開する。「宙いもプロジェクト」「いばらき元気隊」「子育ち食育実行委員会」等のプロジェクト主要メンバーとして関わりながら、茨木のまちづくりや情報発信に務めている。

※表紙の写真は、「宙いもプロジェクト」に参加している、茨木高校のみなさんです。

自由にアイデアを出しあいながらストーリーをつくり、広報や宣伝に効果的なツールとして活用するためのアプリケーションを考えていきます。
ワークショップで生まれた優秀なアイデアは、今年度から、みなさんの目に見えるかたちで具体的にアウトプットしていくことも予定しています。ぜひご期待ください。

小学生が自分の思いを素直に表現したこの平面上のキャラクターに、息を吹き込み、人格を持たせていくのには、多くの知恵と発想力が必要とされるだろう。その創造的プロセスこそ大切にしていきたいし、本プロジェクトの要だと思っている。着ぐるみ、アニメーション、そこから展開される様々なグッズ、プロモーション。これからも、ワークショップの中で、思わぬアイディアが出ることを期待したい。

審査委員長　甲賀 雅章　（大阪府立江之子島文化芸術創造センター 館長）

安威川にいるオオサン
ショウウオのキャラク
ターを考えました。
このキャラクターを、
みんなに好きになっても
らえたら嬉しいです。

寺野 一勢 君
東大阪市立
楠根小学校 3年生
（平成26年度当時）

大阪府広報担当
副知事もずやん

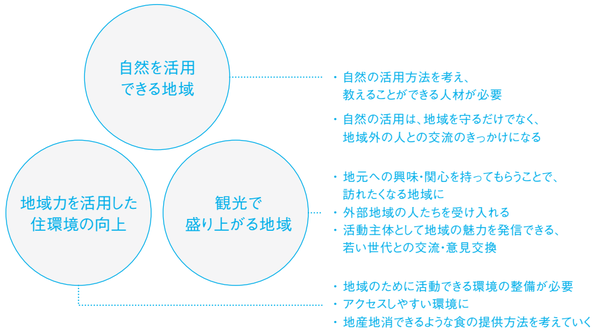
みんなが、いっしょに考える地域づくり「地元ワークショップ」が開催されました。

地元ワークショップによって具体化された「安威川フェスティバル 2014」プログラム

将来のダム完成に向けて、ダム周辺環境の保全・活用と、産・官・学・民の協働による魅力ある地域づくりを目指し、平成25年度より、ダム周辺の地元住民の方々を中心とした「地元ワークショップ」を開催してきました。ワークショップは、ダム周辺環境について、地元住民の方々と行政がともに学び、将来の保全・活用方法を探ることを目的としています。

ワークショップでは、地元6地区の自治会の方々を中心に、「安威川ダム周辺の魅力と課題」「安威川ダム周辺環境の将来像」などについて、議論を重ねてきました。このワークショップを通して、「自分たちができること」「どんな人に関わってほしいか」といったビジョンが明確化され、活動におけるステークホルダーの抽出も積極的に行うことができました。また、平成26年11月に開催された「安威川フェスティバル2014」のプログラムは、地元ワークショップでの意見をもとに、ファンづくり会のメンバーが提案し、ワークショップの参加者によって具体化されました。こうしてできあがったプログラムはいずれも、安威川ダム周辺地域の魅力を深める内容となりました。また、ソフト先行型で進める地域づくりをみなさんに理解していただくステップにもつながりました。

[ワークショップで出された、安威川ダム周辺地域の将来像]



〈 ワークショップ参加者 〉
地元６地区（車作・大岩・生保・大門寺・桑原・安威）、山３地区（清溪・見山・石河）
安威川上流漁業協同組合、茨木市観光協会、環境教育ボランティア

未来につなげよう！美しい自然と創造、出会いの場をめざして。

AIGAWA FES 2014 Report

平成26年11月16日に、茨木市北部にある大門寺北側の高台ゾーンにて「安威川フェスティバル2014」が開催され、約400名が来場されました。当フェスは、「出会いの場としてのダムをめざして」をコンセプトに、安威川ダム周辺地域の活動と、下流市街地の活動が一堂に出会う場として展開しました。

地元ワークショップから抽出されたニーズによって組み立てられた、「自然にふれよう」「文化にふれよう」「ダムにふれよう」の３つのテーマに沿った各プログラムは、地元の協力や市街地の活動団体の支援、様々な関係者の力を結集して実現することができました。同時に「地域づくりの拠点」として安威川ダム資料館を開設しました。今後、この場所がダム周辺の活動拠点の一つとして、さまざまな人々や団体が交流、協働するコミュニティづくりの場になっていくことを期待しています。

市民の皆さんに、ダム資料館を活用していただいています。

平成26年12月、茨木市立東中学校の女子バレー部のみなさんが安威川ダム建設工事の現場見学の一環で、ダム資料館を訪問されました。当日は、転流工の見学の後、ダム資料館にて安威川ダムについてのビデオ上映会を行い、スクリーンを通してダムの歴史や概要、役割や工事の現況などを知っていただき、安威川ダム周辺の環境保全と活用に関心を持ってもらうキッカケをつくることができました。平成27年2月には、「冬の昆虫観察会」の説明会会場の場所として使用され、今後のダム資料館の活用に期待が膨らみます。

「安威川ダムJV通信」

安威川ダム建設工事の最新の進捗状況やトピックを、ダム工事の現場の目線から発信します。工事情報のほか、ダム周辺地域のイベント情報、ダム工事現場で働く人々や、工事で活躍する重機などを紹介しています。毎月発行で、ダム周辺地域を中心に配布しています。

作 成 者 ：安威川ダムJV
掲載場所：AIGAWA.JP、資料館など
http://www.aigawa.jp/magazine/

ダム周辺地域の未来を見据えて「安威川ダム ファンづくり会」ミーティングがはじまっています。

2013 「安威川ダム ファンづくり会」ミーティング レポート

多様な人々が関わる受け皿をつくる。

「安威川ダムファンづくり会」は、ダムやその周辺環境の活用、保全などについて、魅力を感じて集まってこられる方々が「ファン」となって、ダム完成後に、よりよい環境を創出していくことや、地域の魅力づくりに参加していただくことを目的としています。第１回目のミーティングでは、活用と保全の目的・課題・目標を広く共有することの重要性や、プラットフォームを継続的に運営していく担い手となる主体の発掘、あるいは育成についての課題など、各専門分野の視点から多様な意見が出されました。

保全と活用の可能性を探っていく。

ミーティングでは、参加者の皆さんから、「ダムの活用と保全」に関して専門的知見からみた先進事例を紹介していただきました。また、教育関係者、NPO 団体、デザイナーやアーティストなど、様々な立場の方々にご参加いただき、安威川ダム周辺地域の魅力や課題、観光や景観づくり、効果的な情報発信のあり方など、様々なテーマについて活発に議論しました。

「安威川ダム ファンづくり会」とは

府民による自立型の地域づくりを目指して、大阪府文化・スポーツ課が実施する「プラットフォーム形成支援事業」を活用して平成26年３月に発足したものです。従来の行政主導型ではなく府民自立型で、ダム建設中の段階から地域づくりのアイデアを出し合い議論することにより、一層府民のニーズにマッチした地域づくりを目指しています。

「安威川ダム ファンづくり会」は、大阪府安威川ダム建設事務所が、大阪府文化・スポーツ課、府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）と協働して推進しています。

2014 「安威川ダム ファンづくり会」ミーティング レポート

フェスを通して、ファンをつくっていく。

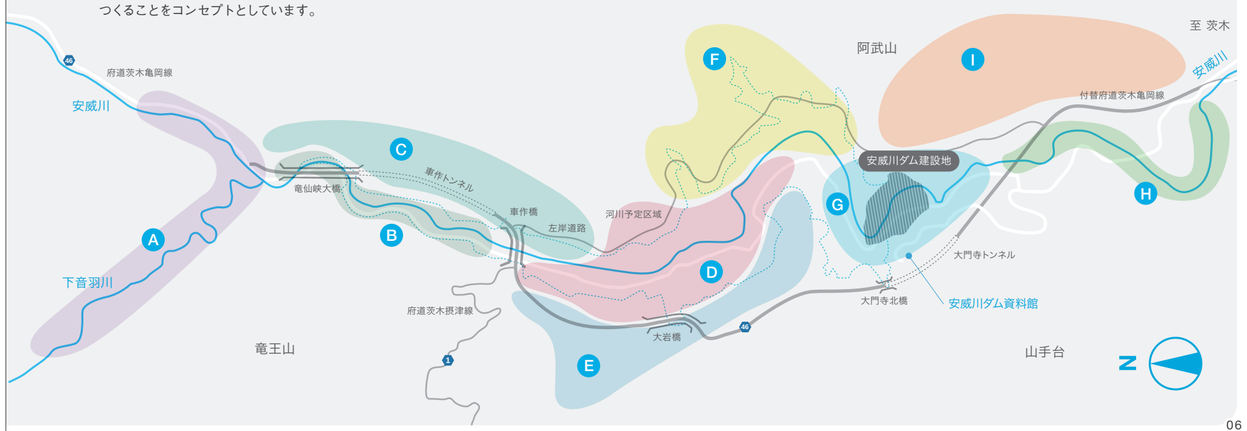
平成 26 年12月に行われた、第１回「安威川ダムファンづくり会」では、議論参加者、オブザーバーの方々をはじめ、企業、ボランティア団体、学生の姿もみられ、幅広い層の方々に参加していただきました。平成26年11月16日に開催された「安威川フェスティバル 2014」のふりかえりと、今後のファンづくり会の活動についてのミーティングが行われました。平成 27 年１月には「安威川フェス 2014 記録集」を発行。誌面には、フェス当日のレポートや、各プログラムの紹介、ファンづくり会メンバーのインタビューなどを掲載しています。平成27年度以降に向けてのフェスの可能性、今回のフェスで生まれた新たなつながりを広げ、この取組みを継続することの大切さを伝えるためのツールとして活用していきます。

「安威川フェス2014 記録集」は、下記webページから閲覧・ダウンロードしていただけます。
安威川ダムおよび周辺のファンづくり会 情報サイト www.aigawa.jp/

今後は、ダム完成後に向けて、今から出来るプログラムアイデアなど具体的な提案が議論され、安威川ダム周辺地域のみなさんと一緒に考え、実践していく一歩を踏み出していきます。

安威川ダムの周辺整備について

平成32年の安威川ダム完成に向け、その周辺整備も実施される予定となっています。ファンづくり会が中心となりながら、周辺整備の方向性を議論していきます。加えて、流域市にお住まいの様々な立場の方々に参加して頂きながら、周辺整備のあり方やコンセプトを議論するワークショップを開催する予定としています。安威川ダムとその周辺がさらに魅力ある場所となること、みなさんに親しみを感じてもらえる場所をみなさんと一緒につくることをコンセプトとしています。

[安威川ダム周辺整備ゾーニングマップ]

A 渓谷自然探勝ゾーン
B 渓流ふれあい体験ゾーン
C 里山ふれあい体験ゾーン
D 湖岸リクリエーションゾーン
E 地域振興拠点ゾーン
F 里山自然保全ゾーン
G ダムのエントランスゾーン
H ダム湖へのアクセスゾーン
I ダムサイト眺望ゾーン